

こども食堂が大事にしていること

これからも大事にしていきたいこと

全国に広がるこども食堂は、子どもたちを
あたたかくやさしく見守りたいという想いで運営されています。

運営者の想いがぎゅうぎゅうにつまつたそれぞれの活動は、
社会を彩るように多様で、それでいて、みんなを包み込む場所です。



そんなこども食堂が大事にしていることを、これからも守り、
そしてやさしい活動が、さらに広がっていくようにと願いを込めて、
こども食堂が大事にしていること、
大事にしていきたいことを5つにまとめました。



私たちの社会が、やさしい社会になるように。
あたたかいつながりが実感できる社会が続くように。



#みんなで食べるとおいしいね

- ①. 違いを認めあい **多様性**
- ②. 「やりたいのは自分」の気持ちで **自発性**
- ③. 分け隔てなく誰にでも **インクルーシブ**
- ④. みんなのために **非営利**
- ⑤. 地域をつなげ、笑顔をつなげる **地域性**

こども食堂が大事にしていること これからも大事にしていきたいこと

の文章化について

こども食堂は、この10年で全国に6,000箇所以上にまで広がってきました。子どもたちを見守り、地域のつながりをつくりたいという気持ちで始まつたこども食堂は、お寺や飲食店、コンビニエンスストア、保育園等、様々な担い手で運営され、多様な広がりを見せてています。子どもを真ん中に置いた地域のつながる拠点としてこども食堂が広がっていくために、これからも様々な担い手が、様々な形で運営し、すそ野が拡大していくことが予想され、また、それは基本的に歓迎されるべきことと考えています。

他方、担い手の多様化が進むことで、これまでこども食堂が大事にしてきたことが失われてしまうのではないか、そうした不安や心配の声が聞かれるようになってきました。とりわけ、政治・宗教・営利活動との関係について、整理を求める多くの声が届いています。そこで、むすびえでは、こども食堂の運営者や地域ネットワーク団体の方たちとともに、これまでのこども食堂の歩みを踏まえて、こども食堂が大事にしてきたこと、これからも大事にしたい想いを言葉にできればと考えました。

かぎりなく多様で、ときに相反する意向をもつすべてのこども食堂の想いやスタンスを漏れなく汲み取ることは不可能です。また言葉にすることで、「そうしなければいけないのか」と感じる人が出てしまう心配もあります。しかし、だからといって何も言わないので社会に対して不誠実だと考え、文章化に踏み切ることとしました。

本文章では、5つの価値観を「大事にしていること／していきたいこと」として提示しています。

① “違いを認めあい” 多様性

こども食堂は民間活動であり、行政サービスのように規格化されていません。それゆえ、運営理念、規模、頻度、食事内容、料金等は、こども食堂によって異なります。参加する子どもたち・大人たちの多様性を尊重するこども食堂は、こども食堂相互の多様性も尊重します。

② “「やりたいのは自分」の気持ちで” 自発性

こども食堂は誰かに頼まれて始めるものではありません。ましてや行政に頼まれて始めるものではありません。「自分がやりたいからやっている」「他人のためでもあるが自分のためでもある」——想いは大切ですが、過度な気負いは禁物です。こども食堂のみなさんは、自分のためだ、とよく笑って言います。





③ “分け隔てなく誰にでも” インクルーシブ

たまたま知った「大変な誰か」を思いっきり支えられる、えこひいきできるのが、民間活動たるこども食堂の強みです。ですが、誰が、いつ、どんな理由・形で困ることになるかわからないこのご時世、その機会は誰にでも開かれているべきです。そもそも約8割のこども食堂には参加条件がなく、みんなに開かれています。

④ “みんなのために” 非営利

自分のためだと笑って言うのは微笑ましいですが、自分の客集め・信者集め・票集めのためだと言うのは笑えません。みんなのためになることが自分のためでもあるという公共性・公益性の観点は欠かせません。株式会社の行うこども食堂も宗教法人の行うこども食堂も歓迎します。ただし、こども食堂に関しては、営利活動・布教活動等とは厳に切り離して行ってもらいたいです。

⑤ “地域をつなげ、笑顔をつなげる” 地域性

子どもが減り、人が減り、さびしくなっていく地域ににぎわいを作りたい。隣の人の顔も知らない、道で会ってもあいさつもない、そんな状態をなんとかしたい。放っておかれる子をなくしたい——自分が暮らす生活圏（地域）において、つながりたい、つなげたい、という想いが多くのこども食堂にはあります。

本メッセージを通じて、多くのこども食堂が大事にしていることが、これからこども食堂を始めようとする多様な担い手の方たちに伝わることを願っています。そして、それを通じて、一人でも多くの子どもや地域の方たちが、こども食堂にアクセスできる社会になることを願っています。

2022年4月

こども食堂運営者、こども食堂地域ネットワーク団体 有志一同
認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ

